

## 新聞の敬語

—尊敬語の実態を探る試みとして—

遠藤織枝

### The honorific expressions in newspapers

Orie Endo

It is generally known that one uses honorific words or expressions about actions or possessions when he intends to respect someone in Japanese sentences.

But if he uses these expressions in each verb and noun about that respected person, these sentences will be so intricate and so annoying for the readers.

The present report deals with abridgement of the honorific words or expressions in written Japanese of some newspapers.

#### はじめに

敬語は日本人にとっても、その日常の用法をめぐって常に論議がくり返され、研究対象としても幅広く深く複雑な問題が多い分野である。日本語教育の場で敬語を扱う際には、こうした日本語の中での問題点、複雑さをできるだけ捨象し、混乱をもちこまないようにしなければならないと思う。そのために日本語の中の敬語の実態をできるだけ正確に把握しておく必要がある。

小論では、書きことばの敬語の実態として、新聞の敬語を取り上げて、現在の新聞の敬語の実態を明らかにしたいと考えた。新聞記事で敬語表現がみられるのは主として皇室関係のものであるから、ここでは1987年2月高松宮の逝去を報ずる新聞記事と同年4月の天皇誕生日の記事を対象としてみた。

なお、敬語の概念としては、待遇表現全般を含めるものから語彙のレベルだけを扱うものまでその規定の仕方も多様であるが、ここでは皇室関係の記事に表われた「お元気・ご出席になる」などの、皇族の行為・状態を高めて表現されている、いわゆる尊敬語に当たるものだけを扱っている。

ここで知りたいと考えた敬語の実態とは、現実の新聞記事の中でどう使われているか、すなわち、皇族の行為・状態を報道する際には、どこまで敬語が用いられるのか、裏返してみればどこで敬語が省かれるか、に関してである。

### (I) 新聞記事中での敬語の使われ方

尊敬語とは「話題の人(行為・所有)についての表現で、話し手がその人への敬意的配慮を表す敬語。話題の人は直接の相手であることもあり、第三者であることもある」(『日本語教育事典』宮地裕)とされ、名詞の場合の「お～、～殿、～氏」、動詞の場合の「なさる、いらっしゃる、お～になる」、助動詞「～れる、～られる」などがその具体的表現とされる。

しかし、これらは、「山田氏がいらっしゃる」だけの短文を作るには十分な説明であるが、連体修飾語を伴ったり、種々の接続語句で接続されているような複雑な文章の中での敬語の使い方を示してはいない。

たとえば、

「…自制するように智子はうなずいた。いいながら智子の目が強くなって、孝平を見た」(『朝日』88、8、8夕刊)

の智子を皇后に変えた場合、

A…自制されるように美智子さまはうなずかれた。いいながら美智子さまの目が強くなられて、孝平を見られた」

でもいいし、

B…自制なさるように皇后陛下はおうなずきになった。おっしゃりながら陛下のお目が強くおなりになって、孝平をご覧になった。

でも間違いとは言えない。尊敬する語句の組み合わせを変えれば何通りもの文章ができることになる。

助詞「ながら」を伴う場合はその動詞を必ずしも敬語にする必要がないし、「自制するように」も「自制されるように」でも「自制なさるように」でもいずれも可能である。

このように、文中にいくつかの動詞句が現われる場合、実際には、どこで尊敬語をどう使われているかを知りたいと思うのである。

こうした、文中での具体的な一般的な使われ方がわからないと、日本語教育の現場で、「教師が急ぎ足で教室に入ってきて、出席もとらずに、大声で話して、出て行った」という状況を敬語を交えた文に表現することを求めるとき、「先生が教室に入ってきて、入ってこられて、入られてきて、入っていらっしゃって」「出席もとらずに、とられずに、おとりにならず」「出ていった、出て行かれた、出ていらっしゃった」などの中から何を選び、どう組み合わせたら、違和感のない、自然な文章になるかの指針が得られないだろう。

そこで、手始めに1987年2月4日の高松宮逝去を報ずる新聞の敬語を中心にその実態を整理してみた。1989年1月、2月の昭和天皇関係の敬語については別途調査するつもりである。

新聞の文章は「省略と連結の発達した文体である。中止形用法も多い」(佐藤洋子「教材として新聞記事の扱い方」『講座日本語教育22分冊』早大語研)

という特殊性をもつ一方で、日夜多くの人々の目に触れる普通の文章という点ではごく一般的な文章の代表とみることもできる。

新聞社にはそれぞれの用法を規定した手引き書がある。『朝日新聞の用語の手びき』（1988年発行）の皇室用語の項目には

1. 戦前、皇室だけで使われていた特別な敬語はやめ、一般敬語のなかの最上のものを用いる。

と記され、特別の皇室用語の具体例は示されているが、一般的な動詞の場合や、その文中で敬語の省略可能な場合の指示などはされていない。

この1.は、1952年に文部省が発表した「これからの敬語」の「11、皇室用語」を受けたものである。そこには次のように記されている。

「これまで、皇室に関する敬語として、特別にむずかしい漢語が多く使われてきたが、これからは普通のことばの範囲内で最上級の敬語を使うということに、昭和二十年八月の当時の官内当局と報道関係との間に基本的了解が成り立っていた（中略）。これを今日の報道上の用例について見てもすでに第六項（＝動作のことば 遠藤注）で述べた『れる・られる』の型または『おーになる』『ごーになる』の型をとって平明・簡素なこれからの敬語の目標を示している」

ここで、皇室関係の動作に「れる・られる」「おーになる・ごーになる」の型をとること、「平明・簡素なものが望ましい」と文部省が考えていたことがわかる。

簡素なものが望ましいなら、先の変形例A、Bで、「自制なさるように美智子さまはうなずかれた」より「自制するように美智子さまはうなずかれた」の方がいいことになるのだが、実際の使用状況もそうなのだろうか。

なお、話し言葉の場合も同じ問題が出てくるが、放送の敬語について

- ①皇太子殿下は家族そろってスキーをお楽しみになっています。
- ②皇太子殿下と家族おそろいでスキーをお楽しみになっています。（下線

部、本文、ゴジック)

のいずれをよしとするのかのアンケート調査がある。そこでは有識者の58%、教員の66%、主婦の79%、大学生の69%が②を指示していた、との結果が出ている。(稲垣吉彦『最近日本語事情』大修館1983)

寡聞にして書き言葉でのこのような調査を知らないので、手近な新聞でそれを調べてみようと考えたのである。対象としたのは、1987年2月4日と4月29日、30日、1988年4月29日、30日の『朝日新聞』(略号A)『毎日新聞』(略号M)『日本経済新聞』(N)『サンケイ新聞』(S)(1988年5月以降『産経新聞』と改めたが調査当時は片仮名書き)『読売新聞』(Y)の5紙の都内最終版である。天皇誕生日関係記事については(A87、29=朝日、1987年4月29日)(M、88、30=毎日、1988年4月30日)のように記すことにする。

## (II) 文中の動詞句の位置と尊敬形

文中に、尊敬すべき人物の行為・動作を示す動詞句がいくつも出てくる場合、そのいずれをも尊敬の形(以下「尊敬形」と記す)にする必要があるのか、省けるとしたら、どのような位置、用法の時なのかを新聞の使用例から考えていくことにする。尊敬すべき人物の行為・動作を表わす動詞でも、尊敬の形をとらない場合がある。これをハダカ形と呼んで論を進めることにする。

文中いくつかの動詞句がある場合の尊敬形、ハダカ形の表われ方に次のような4つの型がある。

A 文末が尊敬形で、文中はハダカ形

(1)a 皇太子ご一家をはじめ各皇族方が弔問に訪れ、最後のお別れをされた。(Y)(傍線遠藤。~~~~はハダカ形、——は尊敬形を示す)

(2)b 宮さまが息を引き取ると、喜久子さまは(中略)ていねいに感謝の

言葉を述べられた。(M)

(3)c 黒の喪服に身を包んだ皇太子ご一家が(中略)弔問のため宮邸に入られた。(N)

B 文末も文中も尊敬形

(4)自ら十年計画の「全国スキー場行脚」を計画され、(中略)立山などの夏スキーまで足をのばされた。(A)

C 文末も文中もハダカ形

(5)二時間後訃報に接した陛下は「早かったね」とポツリ。(N)

D 文中は尊敬形・文末はハダカ

(6)しばしば呼吸困難に陥られるようになっていた。(N)

これらのうちではA、Bの型が多く、C、Dは少ない。(5)の場合も、前後に尊敬形を使った文が来ているため、～ポツリ。と副詞で文を終えていてもそこにはポツリと「言われた、もらされた、おっしゃった」などの尊敬形の動詞が省略されていると考えられる。(6)の「～ようになる」は補助動詞的に考えることもでき、その場合はたとえば、「話している」を「話されている」としたと同じ発想と考えられる。「陥られるようになっていた」を一まとまりの動詞句と考えれば、ここでもハダカではなくなる。

A、Bの型の中では、動詞句の用法により尊敬形とハダカのままの現われ方が異なっている。その用法としては a. 文中の動詞句が連用中止法(例(1)) b. 接続助詞などの助詞に接続する(例(2)) c. 連体修飾語の役割を果たす(例(3)) の三つに大別される。

そのほか、文末の結びを尊敬形にしているかハダカ形にしているかの差も現われている。

まず、2月4日の高松宮逝去を報ずる5紙と、1987年と1988年の4月29、30日の天皇誕生日の天皇の動向を伝える5紙の記事全般の尊敬形・ハダカ形の現われ方を表にしてみる(次頁)。

表1 高松宮逝去記事

|         | 朝 日         |                  | 毎 日          |                  | 日本経済        |                  | サンケイ        |                  | 読 売         |                  | 計            |                  |
|---------|-------------|------------------|--------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|--------------|------------------|
|         | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形  | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形  | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 |
| 連体修飾用法  | 26<br>83.9% | 5<br>16.1%       | 43<br>78.2%  | 12<br>21.8%      | 26<br>66.7% | 13<br>33.3%      | 33<br>73.3% | 12<br>26.7%      | 36<br>63.2% | 21<br>36.8%      | 164<br>72.2% | 63<br>27.8%      |
| 連用中止用法  | 9<br>60.0%  | 6<br>40.0%       | 9<br>52.9%   | 8<br>47.1%       | 6<br>60%    | 4<br>40%         | 12<br>41.4% | 17<br>58.6%      | 13<br>48.1% | 14<br>51.9%      | 49<br>50.0%  | 49<br>50.0%      |
| 助詞などに接続 | 6<br>54.5%  | 5<br>45.5%       | 14<br>46.7%  | 16<br>53.3%      | 10<br>71.4% | 4<br>28.6%       | 8<br>57.1%  | 6<br>42.9%       | 12<br>66.7% | 6<br>33.3%       | 50<br>57.5%  | 37<br>42.5%      |
| 文末に位置   | 21<br>77.8% | 6<br>22.2%       | 37<br>86.0%  | 6<br>14.0%       | 18<br>64.3% | 10<br>35.7%      | 25<br>80.6% | 6<br>19.4%       | 28<br>90.3% | 3<br>9.7%        | 129<br>80.6% | 31<br>19.4%      |
| 計       | 62<br>73.8% | 22<br>26.2%      | 103<br>71.0% | 42<br>29.0%      | 60<br>65.9% | 31<br>34.1%      | 78<br>65.5% | 41<br>34.5%      | 89<br>66.9% | 44<br>33.1%      | 392<br>68.5% | 180<br>31.5%     |

(%は各紙、各用法ごとの尊敬形とハダカ形の比率)

全体の尊敬形とハダカ形の比は表1、高松宮逝去記事では68.5%対31.5%  
表2、天皇誕生日記事Aでは76.6%対23.4% 表3、天皇誕生日記事Bでは  
71.2%対28.8%である。大雑把にみて、皇室関係者の行為の23.4%~31.5%  
は尊敬語なしで表現されているということである。

これを新聞別にみると、表1では『サンケイ』のハダカ形の比率が最も  
高く、『朝日』の比率が最も低くなっている。表2では『毎日』のハダカ形  
の比率が最も高く、『朝日』が最も低い。表3では『日経』が最も高く、『朝  
日』が最も低い。つまり、5紙の中で『朝日』が最も尊敬形を多く用いて  
いることになる。

また、尊敬形、ハダカ形の用法、文中の位置別にみると、ハダカ形の使  
用率の最も高いのは表1では連用中止法、表2・表3では助詞などに続く  
用法の場合である。ハダカ形の使用が最も少ないのはいずれの表でも文末  
の結びの部分にくる場合である。

表2 天皇誕生日記事A (1987年4月)

|         | 朝 日         |                  | 毎 日         |                  | 日本経済        |                  | サンケイ        |                  | 読 売         |                  | 計           |                  |
|---------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|
|         | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 |
| 連体修飾用法  | 11          | 0                | 5           | 4                | 6           | 1                | 5           | 4                | 6           | 4                | 33<br>71.7% | 13<br>28.3%      |
| 連用中止用法  | 9           | 2                | 4           | 7                | 3           | 2                | 13          | 3                | 8           | 3                | 37<br>68.5% | 17<br>31.5%      |
| 助詞などに接続 | 12          | 8                | 8           | 5                | 13          | 5                | 13          | 7                | 9           | 6                | 55<br>64.0% | 31<br>36.0%      |
| 文末に位置   | 16          | 0                | 18          | 0                | 12          | 1                | 20          | 1                | 18          | 1                | 84<br>96.6% | 3<br>3.4%        |
| 計       | 48<br>82.8  | 10<br>17.2       | 35<br>68.6  | 16<br>31.4       | 34<br>79.1  | 9<br>20.9        | 51<br>77.3  | 15<br>22.7       | 41<br>74.5  | 14<br>25.4       | 209<br>76.6 | 64<br>23.4       |

表3 天皇誕生日記事B (1988年4月)

|         | 朝 日         |                  | 毎 日         |                  | 日本経済        |                  | サンケイ        |                  | 読 売         |                  | 計            |                  |
|---------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|-------------|------------------|--------------|------------------|
|         | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形 | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 | 尊<br>敬<br>形  | ハ<br>ダ<br>カ<br>形 |
| 連体修飾用法  | 14          | 5                | 6           | 3                | 9           | 7                | 14          | 3                | 12          | 2                | 55<br>73.3%  | 20<br>26.7%      |
| 連用中止用法  | 7           | 4                | 2           | 7                | 4           | 3                | 17          | 6                | 6           | 3                | 36<br>61.0%  | 23<br>39.0%      |
| 助詞などに接続 | 12          | 3                | 1           | 4                | 7           | 12               | 42          | 23               | 8           | 19               | 70<br>53.4%  | 61<br>46.6%      |
| 文末に位置   | 17          | 2                | 16          | 1                | 15          | 2                | 43          | 1                | 22          | 0                | 113<br>45.0% | 6<br>5.0%        |
| 計       | 50<br>78.1  | 14<br>21.9       | 25<br>62.5  | 15<br>37.5       | 35<br>59.3  | 24<br>40.7       | 116<br>77.9 | 33<br>22.1       | 48<br>66.7  | 24<br>33.3       | 274<br>71.4  | 110<br>28.6      |

次に、連用中止法で打消の助動詞「ず」を伴う場合、助詞に接続する場合の助詞による違いなど、個々の例についてみていく。

A 連用中止法の連用形が打消の助動詞「ず」の場合

(7) 母、貞明皇后の急な逝去にはご臨終に間に合わず (中略) …果たされなかった。(N)

(8) ほとんど口も開かれず (中略) …にひたられているようだった。(Y)  
(7)はハダカのまま、(8)は尊敬形のそれぞれの連用中止法である。こうした「ず」を伴う動詞句は以下のものなど14例あった。

(9) (陛下は) 当時は…顔色もさえず、声にも力がなかった。

(A、88、29)

(10) ( // ) 出席されず… (M)

(11) (高松妃殿下は) 笑顔を絶やさず… (Y)

この14例の内訳はハダカ形10例、尊敬形4例で、ハダカ形の方が多く現われている。「～ず」の前にくる動作は天皇のものであっても尊敬形にする必要がないということである。文語の「ず」を用い、連用中止で簡潔に引き締まった表現をしようとしている時に動詞部分を尊敬形にすると音節数が増えて、その意図が生かせなくなるから、ということであろう。

B 接続する助詞による違いがあるか

B-1 接続動詞「て」を伴う場合

(12) お体にすがって泣かれた。(A)

(13) 天皇陛下が病室に見舞われて皇居に戻られた直後… (S)

のようにハダカ形(12)、尊敬形(13)とも現われている。数の上では、ハダカ形41例に対し、尊敬形10例であった。この場合(12)のように他の動詞句に直接続く例ではすべてハダカ形であり、尊敬形は(13)のように「見舞う」と「戻

る」の二つの動詞の間に他の語が挿入される場合に用いられている。ただし、間に他の語が挿入されても、その前の「て」を伴う動詞部分がハダカ形のものもある。

### B-2 接続助詞「が」を伴う場合

(14) …必死にこらえられたが… (Y)

(15) …続けられたが… (A)

など、21例中19例までが尊敬形で

(16) …神奈川県藤沢市の宮邸別邸へ見舞いに向かったが、到着された時はすでに… (M)

(17) (陛下の)口調こそ乱れなかったが、ただ静かに涙がほおを伝わった。(Y、88、29)

の2例のみがハダカ形であった。(17)の例は「乱れる」の主体は天皇であるが、直接の主語は「口調」とも考えられ、「陛下が乱れなかった」の文より敬意が低いことも考えられる。

### B-3 接続助詞「ながら」に接続する場合

(18) (高松宮殿下は)光景をながめながら (N)

(19) (陛下は)強く希望されながら… (N)

とハダカ形、尊敬形の両方の例がある。この「ながら」を伴う動詞の例は9例あるが、このうちハダカ形のもの7例、尊敬形のもの2例であった。

### B-4 副助詞「など」を伴う場合

(20) 食べたものを戻されるなど… (Y)

(21) 陛下は四月から国、公賓をはじめ、各界の人々と会うなど、ご公務も大幅に増加。(M、88、29)

「など」を伴うものは14例であったが、このうち13例は(20)のような尊敬形のもので、ハダカ形のは(21)の1例のみであった。

C 受身形の場合

(22) 花束を贈られる高松宮ご夫妻。(S)

(23) 母を四十二歳の若さでガンに奪われた妃殿下。(Y)

この種の受身表現は全てハダカ形で用いられている。受身表現では、一般の尊敬形と同形の「れる・られる」が用いられるので、この受身の部分を尊敬形にするとしたら、「花束をお贈られになった／贈られなさった／贈られあそばした」とでもしなければならぬだろうが、そうした形は今回の新聞の調査では見当たらなかった。

ここは、尊敬形と受身形をつくる助動詞「れる・られる」が同一語彙によるものだとする次のような考え方で整理したいと思う。

「……これら(受身・尊敬・可能・自発 遠藤注)の意味はいずれも一連の系列にあるため、相互に転化しやすく、個々の用例については意味が決めにくい場合がある」(『日本文法大辞典』田中章夫 P915)

今回の調査でも、受身か尊敬か区別しにくい次のような例があった。

(24) (陛下は) …表明された。また、二月に亡くなられた弟宮、高松宮さまを思うお歌二首も披露された。(A、87、29)

(25) (陛下は) 昨年十月に予定されていた沖縄訪問が入院・手術によって中止されたこと…(S、88、29)

(24)の「披露された」は歌を主体とすれば受身であり、陛下を主体とすれば尊敬、(25)も沖縄訪問を主体とすれば受身で、陛下を主体とすれば尊敬と、両様に解釈される。

このように、受身・尊敬が未分化の部分を残していると考えられるならば、「ガンに母を奪われた妃殿下」などと表現しても、書く側読む側のどちらにもハダカ形の粗末な扱いとの意識は薄いことが想像できる。

### (Ⅲ) 補助動詞を伴う語の尊敬形の位置

補助動詞を伴う動詞の場合、本動詞と補助動詞のいずれを尊敬形にするか、つまり、「読んでいる」は「読まれている」か「読んでおられる」かのどちらが適切なのか、どちらがより一般的なのかがここでの問題である。

#### 1. 本動詞が尊敬形

##### 1-a ～ている

- (26) (宮さまは)入院される際にも、車いすには乗られていたが…(N)  
(27) 宮さまは すでに十月下旬の一週間、ガンセンターに入院されていた。(M)  
(28) 陛下の立場をいつもお考えになっていた。(Y)

##### 1-b ～てくる

- (29) 外出のご予定もいっさい…宮さまの世話にあたられてきた。(Y)  
(30) 「ガン征服」を念願とされてきた喜久子妃殿下の…(Y)

#### 2. 補助動詞が尊敬形

##### 2-a ～ている

- (31) さめた目で物事を見ておられたようである。(S)  
(32) 気さくな面も持っておられた高松宮さま。(A)  
(33) 平気で何分間か撮影の光景をながめながら待っていらした姿に…(N)

##### 2-b ～てくる

- (34) 戦前は各方面に力を尽くしてこられたが…(S)  
(35) 気さくに国民の間に入ることを心掛けてこられた皇族であるだけに

##### 2-c ～ていく

- (36) 呼吸困難になっていられる宮さまの手を…(S)  
(37) 宮さまは…戦後の混乱期に大衆の間に入っていかれた。(Y)

## 2-d ~てしまう

(38) 宮さまは逝ってしまわれた。(S)

「~ている」、「~てくる」には「~て補助動詞の尊敬形」(Aタイプとする)と、「尊敬形で+いる(くる)」(Bタイプとする)の両方の型があるが、「~ていく」「~てしまう」には、Aタイプの例だけ採集できた。

## 2-a ~ているの場合

補助動詞を伴った「~ている」の尊敬形で、本動詞が尊敬形になった場合「いる」の部分は変化しないが、「いる」の部分が尊敬形になる場合は「いらっしゃる」「おられる」の形で使われている。「いられる」もありうるのだが、今回の新聞の調査では1例もなかった。尊敬形の「いられる」がみられないことについては

「『妻に先立たれると、一日も生きてはいられないだろう』のように、可能表現に多く使われるようになったことと無関係ではないと思われる」(『言葉に関する問答集13』文化庁・1987)

のような解釈が成り立つと思う。

また、「いらっしゃる」「おられる」の敬意の差についても「敬意の差はほとんどないと考えられる。ただ、『おられる』のほうがやや文章語的で改まった言い方であるのに対し、『いらっしゃる』は口頭語的で日常的な言い方」(同上書)に従うことにして、ここでは敬意の質については論及せず、形の上のヴァリエーションと頻度について考えてみる。

さて、本動詞と補助動詞のいずれを尊敬形にするのが適切なのか。

(39) (天皇は)じっと悲しみに耐えておられたご様子だったという。(S)

(40) (天皇は)深い悲しみに耐えられていた。(M)

と同じ場面の描写に、両方の用法が用いられている。ここには、どちらが敬意が高いかの敬意の差はない。Aタイプ「耐えておられた」とBタイプ

「耐えられていた」の差は、前者のように補助動詞部を尊敬形にして動詞句全体を尊敬で括ろうとしたか、後者のように本動詞部だけ、つまり意味を持つ部分を尊敬形にして天皇の動作・行為の部分に敬意を表したのか、の違いであるが、表現意図においてその違いを明らかにしようとするものがあつたとは思われない。語感としては語末を尊敬形にして全体を括る前者の方が、「～いた」とハダカで放りだす後者より穏やかで敬意も高いかに思われるが、そのことはまた、前者の情緒性と後者の簡潔性・機能性との差とも言えることで、その選択は文体、記事の内容とのつり合いを考慮てなされているものと思われる。

量的にみると、補助動詞を尊敬形とするAタイプのもの12例、本動詞を尊敬形とするBタイプのもの55例で、BタイプのものがAの3倍を越えている。いずれもハダカ形のものも4例あつた。

- (41) 昨年宮内庁は会見の際に初めて陛下のためにお答えのメモを用意した。しかし、慣れていない陛下が読み違えられることもあつたため、今年は従来通りメモなしで質問に答えられた。(N、88、29)
- (42) 今では毎日のように執務場所の宮殿に出かけられるなどご体調も安定しており、…(N、88、29)

(41)は連体修飾句としてであり、(42)は体調を主語とみて少し軽く考えられたものかもしれないが、他の場合は連体修飾句であっても尊敬形になっているのだから、それは理由にならない。

一般に書きことばの敬語の使用を説明する際、いくつかの動詞句を含む文では、それぞれを尊敬形にする必要はなく、最後の部分だけを尊敬形にしても最低の敬意は表わせる、とされる(大石初太郎『敬語』P137など)。とすれば補助動詞を伴う場合も本動詞部分より補助動詞部分を尊敬する方が妥当ということになるが、新聞の実情としては本動詞部分の尊敬形が圧倒的に優勢であることがわかつた。

補助動詞部分は尊敬形にするよりハダカ形の方が書き言葉としては引き締まった簡潔な表現であり、新聞記事としてはそれが好まれるのであろう。

次に他の補助動詞の場合をみってみる。「～ている」の場合は、意味の上ではどちらを尊敬形にしても違いはなかったが、補助動詞によっては入れ替え不可能なもの、置き換えると意味が異なるものがある。

## 2-b ～てくるの場合

(43) 兄の天皇陛下とともに生きてこられた高松宮さまが…(S)

(44) ……激動の昭和時代を乗り切ってこられた陛下の側面を見た  
思いがする。(A、88、29)

で、「生きられてきた」「乗り切られてきた」と置き換えるのは無理であるが、

(45) 各方面に力を尽くしてこられた。(S)

(46) 祝宴では陛下は最後まで出席と食事をともにされてきたが…今年  
は退席された。(S、88、30)

をそれぞれ「尽くされてきた」「ともにしてこられた」に置き換えることは可能である。

このことは動詞「生きる」「乗り切る」と「来る」とがいずれも変化を表わす動詞であることによる意味の近さと結合の強さと、「尽くす」「する」と「くる」との関係の弱さの差であると思われる。つまり「生きてくる」「乗り切ってくる」の本動詞と補助動詞の結合のほうが、「尽くしてくる」「ししてくる」の結びつきより緊密であって一語化したものを尊敬形にするとして「～くる」の部分を尊敬形にしたと考えられる。

その一方で「食事をともにしてこられた／ともにされてきた」のいずれも可能なのは、前者では「ともにしてくる」を一括りとして尊敬形にした、後者では「ともにする」を一括りとして尊敬形にし、そのようなことが続いて行われている、と力点の置き方は異なって両様の用法が考えられるの

である。「くる」本来の意味が薄れ、機能としての役割の強い補助動詞の場合はいずれを尊敬形にしてもよい、ということである。

## 2-c ～ていくの場合

(47) 呼吸困難になっていかれる宮さまの… (S)

(48) 大衆の中に入っていかれた。(Y)

ここでは、(47)、(48)のようなタイプの用法だけを採集した。この例のような状況を描写するのに「～になられていく」「入られていく」とのBタイプの表現はしないであろう。「なっていく」という変化する状況を描写したのであり、それに敬意を表したいのであるから、全体を括る形の尊敬表現を選択するのが自然なのである。

## 2-d ～てしまうの場合

(49) 宮さまは逝ってしまわれた (S)

この1例しかなかったが、これも「～ていく」の場合と同じく、「逝かれてしまった」と置き換えることはできない例である。

以上から、補助動詞と本動詞のいずれを尊敬形にするかは、補助動詞によって異なることがわかる。

「～ている」は補助動詞を尊敬形にするAタイプ、本動詞を尊敬形にするBタイプのいずれもあり、それぞれの置き換えも可能な例が多いが、実際にはBタイプの方が多く使われている。

「～てくる」「～ている」「～てしまう」は、補助動詞の本来の意味の度合いの強いもの、つまりその結合により本動詞に新しい意味を加えた度合いの強いものは補助動詞部分を尊敬形にする。言いかえれば 本動詞+補助動詞 の結合が強く一語の意識が強まったものほど一語の語末部分である補助動詞部分を尊敬形にするということである。

以下に今回採集した補助動詞を伴う表現の尊敬形の現われ方を示す表を掲げる。尊敬される主体別に分けてみた。

表4 尊敬形にする語

|                  |       | Aタイプ                      |                        |                        |                        |                             | Bタイプ                  |                            |                            |
|------------------|-------|---------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|
|                  |       | く<br>いて<br>いら<br>っしゃ<br>る | く<br>て<br>お<br>られ<br>る | く<br>て<br>こ<br>られ<br>る | く<br>て<br>い<br>かれ<br>る | く<br>て<br>し<br>ま<br>われ<br>る | お<br>く<br>て<br>い<br>る | く<br>ら<br>れ<br>て<br>い<br>る | く<br>ら<br>れ<br>て<br>く<br>る |
| 87年<br>2月<br>4日  | 天皇    | 0                         | 2                      | 0                      | 0                      | 0                           | 0                     | 11                         | 0                          |
|                  | 高松宮   | 1                         | 5                      | 4                      | 2                      | 1                           | 1                     | 9                          | 0                          |
|                  | 高松宮妃  | 0                         | 3                      | 1                      | 0                      | 0                           | 0                     | 7                          | 1                          |
| 87年4月<br>29日・30日 | 天皇・皇后 | 0                         | 1                      | 0                      | 0                      | 0                           | 1                     | 6                          | 0                          |
| 88年4月<br>29日・30日 | 天皇    | 0                         | 0                      | 1                      | 0                      | 0                           | 0                     | 20                         | 1                          |
| 計                |       | 1                         | 11                     | 6                      | 2                      | 1                           | 2                     | 53                         | 2                          |

(IV) 尊敬語のレベル

冒頭に「これからの敬語」を引用したが、その中に『「れる・られる」または『おーになる』『ごーになる』の型をとって表現し、平明・簡潔なものが望ましい』と記されていた。ここでは「れる」「られる」形、「おーになる」「ごーになる」形を平明簡素な表現として同列におかれているが、尊敬語のレベルを問題にする場合は、その両形は同じレベルではなく、「れる」「られる」形は「お(ご)ーになる」形より敬意のレベルは低いとされている。

そこで、新聞で実際にはどちらのレベルのものが多く使われているのかを調べてみた。

その前に高松宮の逝去を報ずる各紙の尊敬形の用い方をみしてみる。いず

れも2月3日夕刊トップ記事の見出しとリードの記事である。

- (50) 高松宮さまご死去  
…で死去された。…八十二歳だった。 (A)
- (51) 高松宮さまご逝去  
…でお亡くなりになった。八十二歳であられた。 (M)
- (52) 高松宮さまご逝去  
…で死去された 八十二歳だった (N)
- (53) 高松宮さまご逝去  
…でお亡くなりになった。八十二歳のご生涯だった。 (S)
- (54) 高松宮さまご逝去  
…でお亡くなりになった。八十二歳だった。 (Y)

「死去」と「逝去」、「死去される」と「お亡くなりになった」、「だった」と「であられた」「～のご生涯だった」のそれぞれの違いを、選びながら各紙が見出しをつけ記事を書いている。同じ事実をわずかなことばで報道するのに、5紙がそれぞれどこか異なっていて、同じ表現をしたものは1紙もない。

それぞれが敬意のレベルの選択に独自性を示しているともいえる。こうした見出しやリードは、短い語句や文で要点をついたもの、しかも予め敬意について検討しておくような余裕のない短時間の判断で選ばれたものであるから、いっそう純粋に各紙の日ごろの言葉遣いが出てしまっていると思われる。

なお、宮内庁の発表では「宣仁殿下は…において薨去せられました」であったと『サンケイ新聞』は報じている。「薨去」は天皇・皇后・皇太・太后・皇太后以外の皇族の死去を意味する語だが、『朝日新聞用語の手引き』では、この語は使わず、ご逝去、ご死去、ご永眠、お亡くなりになる、亡くなられる、を使うとしている。『現代国語例解辞典』でも「もと、皇族や

三位以上の方が死去すること」と記述されている。

「薨去」だけでも敬意のレベルが一般のものより格段と高いのに、その上に「薨去せられる」という。「せられる」は「高度な敬意を表わす」(『広辞花』第三版)もので、「薨去される」より一段と高い敬意を表している。宮内庁の用語は「これからの敬語」の線にとらわれず独自に、庶民感覚と離れたところに今なおあるらしいことがこれで窺われる。

以上は、同じ記事の扱いで言葉遣いのレベルの違う例であるが、次に各紙を通して、人物や事柄による敬意のレベルの差をみていく。

断定を表す「～である」の表現に

(55) ご自身もスポーツマンであられたが… (M)

(56) 病気にはほとんど縁のない元気な宮さまでいらっしやっただけに  
(S)

(57) 戦前は“海軍の宮さま”であった。(S)

と三つのレベルの表現がある。「あられる」は現在ではあまり使われない(『言葉に関する問答集13』)レベルの高い表現であるが、今回の調査では3例(高松宮に対して2、天皇に対して1)採集している。

一般の動詞の場合は「お～になる」と「～(ら)れる」の二つの型が使われているが、その実態を調べてみる。

(58) (陛下は) わずか二時間前に高松宮さまを見舞われたばかりだった。  
(Y)

(59) 陛下がはじめて宮邸にお見舞いになったのは… (M)

と、同じ動詞でも二つのレベルで用いられている。まず全体としての「れる・られる」形と「お(ご)～になる」の使われ方を考えてみる。「いらっしやる」「あられる」はここには入れていない。また「ご出席」「ご訪問」などは動作性のものであるが名詞の尊敬形としてここには入れず、あくまで動詞形の尊敬形に限った。

表 5

|                  | レベル<br>動作主      | れる・られる形 |       | お（ご）～になる形 |       |
|------------------|-----------------|---------|-------|-----------|-------|
|                  | 87年<br>2月<br>4日 | 天皇      | 116   | 92.1%     | 10    |
|                  | 高松宮             | 178     | 89.4% | 21        | 10.6% |
|                  | 高松宮妃            | 79      | 97.5% | 2         | 2.5%  |
| 87年4月<br>29日・30日 | 天皇              | 144     | 86.7% | 22        | 13.3% |
| 88年4月<br>29日・30日 | 天皇              | 218     | 94.8% | 12        | 5.2%  |
|                  | 計               | 735     | 91.6% | 67        | 8.4%  |

「れる・られる」形が、より敬意のレベルの高い「お（ご）～になる」形と比べてはるかに多く使われていることがわかる。書き言葉としては、この形が最もふさわしいと新聞では考えられていることがわかる。文部省の「平明・簡素な敬語」がここに生きているのである。

#### （V） 誤用と思われる尊敬表現

敬語の混乱が問題にされ、誤用か、ゆれか、慣用として認めるか、などを問われる際、具体例に基づいて判断をすることになるが、今回調査した新聞記事の中にも、二、三誤用か許容できるか判断に迷うものがあった。次のような例である。

- (60) 妃殿下は、天皇陛下に伝えられた以外は本当に病名をご自分の胸にしまわれ、外出のご予定もいっさいとりやめになって、宮さまの世

話にあたられてきた。(Y)

「とりやめになる」の主語は A 「予定がとりやめになる」か B 「妃殿下がとりやめる」かのいずれかであるが、この文中のいくつかの動詞の主体は全て妃殿下であることから、ここも B と考えるのが自然だと思う。「お～になる」の尊敬形の「お」が脱落したのであろう。この箇所は妃殿下の行為であるから、「とりやめて」「とりやめられて」「おとりやめになって」のいずれかが正しいが、同一文中に「伝えられ」「しまわれ」「あたられ」と多くの尊敬形が使われているから、ここは「とりやめて」にしたいところである。

この例は敬語の誤用とみる以外に、途中で別の文脈が挿入された文脈のねじれとみることもできる。その場合は「予定がとりやめになる」で、「とりやめ」は名詞である。

- (61) 陛下は宮さま入院中から「一度、病院にたずねなければならない」と侍従に申されるなど、ご心配の色を濃くされていた。(M)

尊敬語で敬意を表してきた陛下の侍従に対する行為を「申される」は誤りである。尊敬の助動詞「れる」をつけてはいるが「申す」は謙讓語である。「先ほど先生が申されましたように」の例はよくひきあいに出されるが、これは「『申される』をとくにあらたまつた場合の上等の尊敬語と感ずる意識はかなり一般的だが、これを認めない規範論が今日優勢である」(大石『敬語』前掲書 P86) で、特に天皇の行為に用いるのは明らかに誤りである。

- (62) 高松宮さまは、小さい時から長兄の陛下に齒に衣を着せず率直に意見などを申し上げてきた。(M)

これは高松宮の天皇への謙讓であるから誤りとは言えないが、記者の高松宮に対する敬意は示されていない。先にみたように、尊敬すべき人物に対しても必ずしも尊敬形で終始していないわけではない。現在の新聞の実情からすれば、ここがハダカ形であってもかまわない。ただ「申し上げる」

を謙讓語であると意識し、記者側からはハダカであることを承知の上で表現しているかどうかは疑問である。次の例も同じケースである。

- (63) 病室を出る前、妃殿下は「お別れをしたい」と特に申し出て、約十五分間、ご遺体の前に、寛仁ご夫妻と三人でひと時を過ごされた。(Y)

記事では妃殿下に対して尊敬語で偶しているのだから、その妃殿下の行為に謙讓語「申し出る」を用いるのは誤りである。仮に、妃殿下の天皇に対する行為であればこの用法が妥当となるが、ここでは病院側に対する行為であるから、謙讓表現の必然性はない。(63)と同じく、もしかしたら、記者の尊敬・謙讓表現をとり違えたものかもしれない。

- (64) 高松宮さまをお見舞い、無言で引きあげられる天皇陛下。(M)

この「お見舞い」はどうか解釈すべきだろうか。動詞「見舞う」の連用中止なら「見舞い」でなければいけないし、その尊敬形の連用中止なら「お見舞いになり」「見舞われ」でなくてはいけない。名詞形「見舞い」に尊敬の接頭語「お」のついたものなら「お見舞いをし」とか「お見舞いをすませ」と動詞を伴わないと文中に位置を占めることはできない。なお「お見舞いし」は謙讓形になるから、天皇から弟である高松宮への行為としては使えない。「～をお見舞い」は新聞の場合「被害者をお見舞い」のような文で、見出しや、記事中の省略文などでは見られる使い方である。そうした用法もあるため、まだ完結していない従属文の中につい使ってしまったものと思われる。読む方もつい見過ごしてしまいそうではあるが、やはりこれは誤用である。

- (65) 昨年の誕生日の祝宴で食べたものを吐かれてから一年…励まれている。(M、88、29)

- (66) その串だんごを、陛下と高松宮ご夫妻が楽しそうに食べられた、と後で聞いた(M)

- (67) 若い時から酒やたばこは飲まれず…健康には気を配られていた陛下。

(S、88、29)

これらは誤用ではない。(65)はハダカ形で天皇の「食べる」動作を表したものの、(66)(67)は「食べる」「飲む」を「れる・られる」形の尊敬形にしたものである。

日本語教育の初級でも、「食べる・飲む」の尊敬は「食べられる・飲まれる」ではなく「めしあがる」が適当として、語形が変わるだけに力を入れて教えているが(『日本語初歩』(国際交流基金)P267、『日本語教科書初級』早稲田大学語学教育研究所編P359など)、これらの記事の用例を見ると、それほど無理をして「めしあがる」を初級で教える必要があるのかと思われる。もちろん語形の異なる尊敬形としていずれは教える必要はあるし、書きことばと話しことばの違いも見逃せないが、敬語にそれほど時間を割けない初級では見送って、さらに進んだ段階で提示してもよいのではないかと思われる。

### おわりに

以上、新聞の実例から、尊敬形とハダカ形の現われやすい位置・用法を見てきた。同一文中でいくつも動詞句が重なる場合の、敬語の省略の目安がえられたように思う。また、レベルの上でも「れる・られる」が圧倒的に多いこと、補助動詞を伴う場合は従来一般にいわれてきた末尾部分ではなく、本動詞部分に尊敬形が現われることを知った。

また、誤用あるいはそれに準ずるものの例が、わずか数日の新聞からこれだけ採集できたことから、日本語の中の敬語の複雑さ難解さが新聞の現場に如実に反映されていることが理解できた。

先の文部省の指針にも示されているように、私は敬語はできるだけ簡素化されるべきだと考えている。特に日本語教育では敬語指導や学習に時間やエネルギーを取られすぎるより日本語の語彙や表現を豊かにし、内容の

豊富な日本語運用能力を育てるのにそれを費したいと思う。

文章表現に際しても、敬意を表せる箇所ではできるだけ尊敬形にさせる、  
というのではなく、簡潔で引き締まった表現の中で敬意を表せるような、  
必要最少限の敬語使用の指導が必要だと思う。そのためにも、敬語形省略  
の可能性を明らかにする必要がある。今回の調査で知りえた現在の新聞  
の敬語の実態は、敬語全体の観点からみれば極めて微々たるものであるが、  
日本語教育の実際の際に取り入れられるものは取り入れていきたいと考  
えている。